



## イギリス科ニュースレター No. 15 / October 2007

東京大学教養学部地域文化研究学科イギリス分科  
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 (8号館402号室)  
Tel/Fax 03-5454-6304 (イギリス科研究室直通)  
E-Mail: british@ask.c.u-tokyo.ac.jp  
Home Page: <http://British-Section.c.u-tokyo.ac.jp>



### 主任挨拶

#### ホームカミングデイ近し!!!

安西信一

いつも愚にもつかない駄文を書かせていただいておりますが、今回はそれとは違い、きわめて重要なお知らせがあります。来る11月10日(土)、東大のホームカミングデイ(卒業生がキャンパスに集う催し)が行われること(駒場は10:00正門集合)。そのお知らせは、卒業生や退職者の皆様には直接発送されていません。くれぐれもご注意ください。事務方が、その連絡のため卒業生の住所・氏名のリストを提出せよといってきたのですが、そうした個人情報を、本人の承諾もなく提出するのはよくないとの声がイギリス科内から挙がり、私も至極尤もだと思いましたので、提出しなかった結果です(同様の判断をした他の分科もあるようです)。皆様には多大なご迷惑をおかけしますが、どうかご了承の上、当日は多数お越しくださいますようお願い申し上げます(なお個人情報提出に関する皆様のご理解を得ることも考えております)。ホームカミングデイに合わせ、イギリス科でもごくささやかな歓迎の用意をさせていただきます。詳細は本ニュースレターの該当箇所をご覧ください。またホームカミングデイそのものの詳しい案内は、次のホームページにあります。

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/gakuyukai/hcd2007/index.html>

ホームカミングデイの折にはいつも顔見知りの/今まで知らなかった卒業生の皆様とお会いし、楽しい時を過ごさせていただいております。一種の同窓会です。ここで一つそれにちなみ、イギリス科とは直接には関係しない宣伝をさせていただきます。それは駒場のホームカミングデイで、選抜

学生によるコンサートが行われることです。

ご存じない方も多いかと思いますが、駒場では昨年、スタインウ

エイのピアノを購入しました。フルコンサート・タイプの、とても長いグランド・ピアノです。普段ピアノそのものの音色などまるで

### 新任のご挨拶 Professor David Carter (オーストラリア客員教授)

Thank you to the British Studies section for inviting me to introduce myself. I have just arrived in Tokyo from Australia to take up the position of Visiting Professor in Australian Studies in the Centre for Pacific and American Studies. This is my fourth trip to Japan, but the first extended visit. I was first invited in 1998 by the Australia-Japan Foundation (AJF) to give a series of lectures at various universities on the question of Australia becoming a republic, which was then very much in the news. On returning to Australia, I was appointed as a Board Member of the AJF. This is the body that works within the Australian Department of Foreign Affairs to promote educational, cultural and professional links between Australia and Japan.

I am a graduate of the University of Melbourne, where I studied English and Philosophy (and some Law), and I completed my PhD at Deakin University in Victoria, which was then a new university with many exciting interdisciplinary programs. I began teaching in the areas of Renaissance and Eighteenth-Century Literature but gradually moved more towards an interest in Australian literature. In 1987 I moved to take up a position in Australian and Comparative Studies at Griffith University in Brisbane, Queensland, another new interdisciplinary university, and then in 2001 moved across to the University of Queensland as the Director of its Australian Studies Centre. I am now Professor of Australian Literature and Cultural History at the University of Queensland.

My research has focused primarily on the twentieth century, and especially on what I call the institutional dimensions of literary, artistic and intellectual movements. My most recent research has been on the role of magazines in such movements and the Australian (and global) publishing industries. My other fields of research and interest are literary and cultural theory, popular culture studies, and Australian Studies (especially Indigenous studies and multiculturalism).

I recently published a book on the contemporary publishing industry in Australia (*Making Books: Contemporary Australian Publishing*, University of Queensland Press, 2007, edited with Anne Galligan) and a comprehensive Australian Studies textbook (*Dispossession, Dreams and Diversity: Issues in Australian Studies*, 2006, Pearson Longman). Other publications include a book on the role of public intellectuals in Australia (*The Ideas Market*, Melbourne University Press, 2004) and a study of the Australian-Jewish writer Judah Waten (*A Career in Writing: The Cultural Politics of a Literary Career*, 1998).

(continued overleaf)

My current research project is a history of 'middlebrow book culture' in Australia. The 'middlebrow' is a term that emerged in the 1920s to describe literature (and readers) that was thought to be better than popular 'trash' but also still accessible to general readers, so not too 'avant-garde' either. Middlebrow institutions both re-packaged the classics for 'ordinary' readers so that they were not just accessible to specialists and also worked to sort through the rapidly multiplying number of new fiction titles that were appearing at this time in order to advise readers as to those that were both accessible and worthwhile. Major studies of the middlebrow in the USA have been published and some good work has been done for Britain, but as yet little has been done on this phenomenon in Australia.

As well as my research and teaching I have been active in promoting Australian Studies overseas, especially in China. I am currently Manager of a program that supports Australian Studies in mainland China and Taiwan, funded by the Australia-China Council (the equivalent to the AJF). I am greatly looking forward to adding a rich experience of Japan to my international experience while at Komaba.

気にしない私でさえ、思わずうなづいてしまう素晴らしい楽器。現在、新設のコミュニケーション・プラザ内、音楽実習室という、いささか場違いなところに置いてあります。まともなコンサート・ホールがないにもかかわらず、これほどの楽器を買ってしまうところが、お役所的なのか、駒場的なのか。

調律代だけでも馬鹿にならないのですが、ともかく超一流の楽器を入れたということで、宝の持ち腐れにならないよう、昨年度の後半から精力的にコンサートを行ってきました（今のところ一般の方は弾くことができません—かなりの金を取って弾かせるというあこぎな、ないし独立行政法人的なことも話題に上ってはいますが）。私はその運営を行うピアノ委員会というものに属していますので、やや自画自賛的になりますが、具体的には以下のようなコンサートです。まず昨年11月のホームカミングデイでは、ゴチェフスキ准教授によるお披露目コンサート。続く12月には、我が国を代表するクラシック・ピアニスト、小山実稚恵によるコンサート。さらに3月には、オーディションを勝ち抜いた選抜学生によるコンサート。6月に日本を代表するジャズ・ピアニスト、佐藤允彦、そしてこの9月には世界屈指のジャズ・ピアニスト、フレッド・ハーシュを

迎えてのコンサート。他にもいくつかのコンサートを行い、いずれも大変な好評を博してきました。そして今回、ホームカミングデイに合わせて、第二回の選抜学生コンサートが行われるわけです。これは卒業生の皆様も聴くことができますので、ぜひお越しください（14:30から、駒場コミュニケーションプラザ北館2階音楽実習室にて。参加申込不要）。学生といっても最近では演奏レベルが非常に高く、中にはプロとして活動している人もいます。もちろん今回は無料です—寄付は大歓迎ですが。

ただ残念なのは、駒場のオルガン・コンサートに比べていまだ歴史が非常に浅く、必ずしも認知度が高くないことです。一生懸命宣伝しているつもりなのですが、「知らなかった、残念だ」という声をしばしば耳にします。今回はそうならないよう、宣伝させていただいた次第です。

なお音楽に関連してもう一つ宣伝をさせていただければ、先にも名前を挙げた畏友の音楽学者、ゴチェフスキ先生が中心になって企画した、「機械仕掛けの音楽」という実に興味深い展覧会が、10月20日（土）から12月2日（日）まで駒場博物館（美術博物館）で行われており、ホームカミングデイの日もご覧いただけますので、こちらも合わせてお越しください。

## ホームカミングデイのお知らせ

11月10日（土）、東京大学ホームカミングデイが開催されます。色々な事情からご連絡が遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。卒業生の方々に東大の各キャンパスにお迎えして、現役の学生や現職の教員らとの歓談・交流の一日をお過ごし頂くこのイベントも、今回で6回目を数えます。イギリス科はこれで4回目の参加となりますが、これまでの3回に沢山の卒業生の皆様において頂きました。今年も是非、皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。16:00から18:00頃まで、イギリス科研究室（8号館402号室）にて、現職の教員と在學生が皆様をお待ちしております。この春より新しくなりましたイギリス科研究室で、ワインなど頂きつつ、心楽しい秋の夕べをご一緒しましょう！

ホームカミングデイの他のイベントをいくつかご紹介致します。駒場での催し物は、主任挨拶で言及されております「機械仕掛けの音楽」展、そして学生選抜ピアノ演奏会（14:30～16:30）の他に、「駒場の樹木をめぐるイベント」が12:30～14:30に行われます（参加申込不要、無料）。

さらに、教養学部（及び大学院総合文化研究科）のレセプションが、ファカルティハウス（旧同窓会館）にて、17:30から開催されます。ベテラン会との合同となりますので、皆様の恩師の先生方もおいでになるかもしれません。このレセプションは事前予約が必要となります。下記ウェブサイト、またはお電話かE-Mailでお申し込み下さい（10月31日締切）。  
<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/gakuyukai/hcd2007/apply/index.html>

Tel: 03-5454-6013（総務課総務係）

E-Mail: [soumu-kakari@adm.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:soumu-kakari@adm.c.u-tokyo.ac.jp)

また、本郷キャンパスの方では、「東京大学130周年記念講演・式典」続けてレセプションが、安田講堂と山上会館で開かれております（10:00～14:00）。恐れ入りますが、こちらは下記ウェブサイトでの予約のみとなります（10月28日締切）。

<http://www.130out.pr.u-tokyo.ac.jp/event/03.html>

来月10日、新イギリス科研究室に、皆様どうぞお運びください！